

第3分科会 助言

川崎医療福祉大学
医療福祉経営学科
坂本 圭

3-1 高齢者の生きてきた歴史を認識する

- 職員の資質に応じた分担作業
→共感作業(職員全員)が出来ている
- フェイスシートから基本情報を確認
→利用者をより身近に感じている
- 分析方法として時代ごとに分ける点は優れている
- 今後の課題
→発語の少ない利用者への対応をどうするか

3-2 介護者自身もその人らしい人生が送れるように

- 厚生労働省データを用いている点
→客観的に分析することにつながっている
- 方向性を明らかにし、問題を明確化している
- 1スライドごとの発表原稿文字が多すぎ
読みにくい

3-3 在宅生活をいつまでも続けるために

- 本人への対応を見直す点
→水分摂取を通して明らかに出来た
- 家族とのコミュニケーションの重要性
→実践できた
- スライドによっては発表原稿をそのまま掲載しているものがある
→工夫が必要
- 1枚のスライドに文字がてんこ盛りである点
→あえて出さずに、質問が出てから見せることも考える

3-4 おしながき請負人 取り戻すことができた自分らしさ

- 今回は、個別のケースを分析したが
→ 普遍化、標準化のために継続が必要
- 「活動の成果と評価」のスライドについて
→ 1人1人への対応ではなく、このモデルが
どの場面で適応できるか検討するとよい

3-5 認知症介護における声掛けと誘導

- チェックシートの作成は評価に値する
- 一方で、チェックシート項目の妥当性、整合性について検討するため、研究の継続が必要
- スライドごとにアニメーションを多様
→ 見る側の興味を引きつける一方、動作が煩雑になりスムーズさに欠けることもあるので、そのことに気をつけて作成する必要あり

3-6 誤嚥性肺炎減少への取り組み

- データを長期間継続して収集した
→収集したからこそ出来た研究である
- データの分析方法を率(%)で算出したところも適切である
- 特定の職種のみの実践で終わっているのではなく、他職種連携につなげている点も優れている

3-7 アロマセラピーでホリスティックケア

- スライドの構成、表現方法(図表の使い方)、展開時間、いずれも優れている
- 職員間の共有が出来ている
- 利用者への活用について、強弱を付けている
- 別のやり方を検討(複数サービス)出来ている
- 若干スライド1枚に使う文字数が多すぎる

3-8 笑顔あふれる施設をめざして ～より良いユニットケアを考える～

- 新人職員でスタートしたからこそ、組織体制について分析することも可能である
- ボランティア・クラブ活動のアンケートについて、選択項目を奇数にする事で回答が明確になる

3-9 尿意を活かす

- 過剰介護を見直し、自己資源の活用を促しているところが優れている
- 「書き出しの内訳」スライドは、表にしたら見やすい

3-10

- マニュアルを作成する事により積極性が生まれ流と同時に、職員1人1人にゆとりが生まれ、臨機応変の対応が出来る
- 取り組みをする際のリスクマネジメントの検討
→特に利用者家族に対して

第3分科会全体講評

- スライドの文字についての留意点
→MSゴシック、28pt以上が見やすい
- 間の取り方にも工夫する
- スライド1枚の原稿は
→350～400字が適切である
- 文字数が多いと読めない、読みにくい、関心をもって貰えない
- 目次スライドを挿入するとよい